令和６年度　文教厚生常任委員会視察研修報告

目　的：富加町夕田墳墓群国史跡指定に伴い、来年度から整備計画の策定を進めていく。同様に国指定史跡となった古墳や史跡を訪ね、整備の方法、その財源、保存と活用の実践、ふるさと教育への活用など、現地を視察しながら、わが町の歴史的遺産をどう生かしていくかを考察するための参考としていく。

日　程：令和６年 11 月 12 日（火）～11 月 13 日（水）

行　先：①　奈良県奈良市東大寺正倉院
②　奈良県磯城郡田原本町　唐古・鍵遺跡史跡公園、唐古・鍵考古学ミュージアム
③　奈良県高市郡明日香村　石神遺跡（跡）・牽牛子塚古墳・越塚御門古墳
④　奈良県橿原市　新沢千塚古墳群公園

同行者：文教厚生委員会委員　林由香里　森利和　福田定道　井戸亨
富加町町長　渡邊圭太、　教育課長、　教育課文化財専門官、　議会事務局長

①　東大寺正倉院にて

春日大社の駐車場にバスを停め、そこから歩いて 30 分。本物の正倉院を視察しました。教科書などでも紹介されている「校倉造」で、湿気の多い夏場は自然と木材が膨張して湿気が中に入らず、また、乾燥する冬場は木材が収縮するため乾燥した空気が中に入り、中の宝物を湿気やカビから守るという昔からの知恵を活かした造りです。

この中で、1300 年もの間、半布里戸籍は奇跡とも言われる変遷を経ながら、この中で守られてきたのです。正倉院は南倉、中倉、北倉の３つの倉から成り立っていますが、半布里戸籍は中倉に保管されていたそうです。

ちなみに、現在は、この正倉院の奥に、コンクリート造りの正倉院があり、そちらで空調管理をされながら、宝物たち（半布里戸籍も）は所蔵されているそうです。そちらの新しい倉庫もやはり「勅封」であり、現在でも宮内庁等の許可がないと開けられないそうです。

正倉院の本物を見るのは初めてという議員も多く、その大きさ（間口約 33m、奥行き約 9.4m、総高さ１４ｍ）に圧倒されました。また、正倉院を目の前にしての当町文化財専門官の説明は、とてもリアリティがあり、戸籍が残った奇跡についても、感動すら覚えました。また、専門官がなんにでも答えられるので、他の個人の歴史マニア？さんが、私たちの中に混じってきて質問をされるというシーンもありました。（改めて、富加町の文化財専門官は町として誇れる存在だと感じました）パンフレットにも「宝物」として、きらびやかなもの以外に「大宝２年の戸籍」という記述が入っていました。

※　戸籍が残った奇跡については今年刊行された「とみか古代史ハンドブック」に詳細があります。

昼食は、春日大社境内の茶屋「茗荷茶屋」でいただきました。奈良名物の柿の葉寿司（サバやサケの切れ身を乗せて押しずしにしたものを柿の葉に包んだもの）や茶粥（が原型だと思われます）の店オリジナルの進化した万葉粥（キノコなどが加えられ、味付けがされていました）がありました。後述しますが、私見として奈良県も岐阜県と同じ「海なし県」、岐阜県でも同じような食文化があるように思います。こういった食を「古代食」として富加町で売り出していくのも良いかなとも思います。

②　奈良県磯城郡田原本町　唐古・鍵遺跡史跡公園、唐古・鍵考古学ミュージアムにて

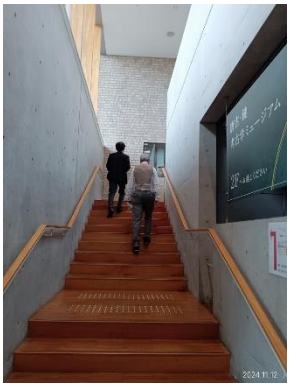
史跡公園・ミュージアムの概要

唐古・鍵遺跡史跡は、弥生時代日本最大級のムラで、幾重もの環濠に囲まれた集落の遺跡です。当時最先端の技術を持ち、近畿地方のリーダー的な役割を果たしていたのではないかと考えられており、平成 11 年に国の史跡に指定されました。

現在は、遺跡の一部が史跡公園として整備され、周囲の田園風景も含め、弥生時代の「風景の再現」及び「生活の体験」ができる場となることを目指しておられます。個性的な建物「楼閣」が再現されたり、柱の模型が再現されたりして、大型建物の大きさを知ることができるようにしてあります。また、環濠の一部も再現されています。

富加町議員視察の視点

富加町には、日本最古の戸籍である「半布里戸籍」だけでなく、同時代の人々の生活が分かる「東山浦遺跡」「羽生遺跡」などの遺跡もあります。40～50 年ほど前に発掘調査が進められ、「戸籍」と同時代の遺跡が出たことに対する価値の高さには、多くの考古学者が感嘆しましたが、残念ながら当時はそこまで歴史的価値を町民や県民に認識していただく機会が少なかったようで、「見える」形での保存はできなかったようです。これから富加町を「歴史ロマンあふれる町」として皆さんにアピールするにあたって、この遺跡の存在、特に古代の生活の様式を、ひとり一人の名前までわかる「半布里戸籍」と併せて価値づけていくことは、大変重要なことだと我々は考えています。どのように「みせる」のか、どのように「価値を知っていただく」のかそれを探るうえで、こちらを視察先に選びました。また、こちらのミュージアムは、国史跡指定によって整備され、とても分かりやすい展示になっているとお聞きしました。富加町も夕田墳墓群が国史跡になったことに伴い、ミュージアム（郷土資料館になるか？）もリニューアルが検討される可能性が高いので、この辺りもぜひ視察したい観点だと考えました。



視察の過程

私たちは先に田原本青垣生涯学習センター内にある、唐古・鍵考古学ミュージアムを訪問しました。こちらは唐古・鍵遺跡から出土した遺物を中心に、弥生時代の生活をよくわかる形で展示されていました。土器の中には、「楼閣」が描かれた土器片も展示されており、この絵をもとにあの楼閣が再現されました。時代を追った展示と

なっており、土器や鉄器、石器などの作り方や使い方を人形で再現されていたり、また、まつりや戦いの衣装や化粧なども、再現して人形に着せてあったりしました。非常にわかりやすい展示で、子どもたちが見てもよくわかるのではないかと思いました。他にも、特筆するようなものは、中央のガラスケースに展示されるなど、配置も工夫されていました。

　その後、唐古・鍵遺跡史跡公園に行きました。こちらは「道の駅　レスティ唐古・鍵」にバスを駐車しての視察となりましたが、この道の駅と公園の間に信号のある比較的大きな交差点があり、分断されている感が否めなくて少し残念に感じました。

　こちらの公園では、先述の遺跡が見られましたが、まず、公園内の案内施設で遺跡発掘の様子が足元のガラス越しに見られるようになっておりました。また、ここで、貸し出された ipad を使って、VR 技術で遺跡のある場所にパットのカメラを向けると、当時の建物や、そこから発見された遺物などが映し出されました。高床式の大型建物などは、そこには柱しかありませんが、このパットをかざすと、そこにあったと思われる建物の外観はおろか、内部の様子まで映し出されました。パットの充電設備などは、銅鏡型をしていて、興味深かったです。

残念ながら、今回、日程の関係で予定が合わず、田原本町の議員や文化材関係の職員の方たちと現地でお話しすることはできませんでしたが、富加町文化財専門官がその分をカバーしてくれて、現地視察が充実したものになったことを付け加えさせていただきます。

夕食と宿泊先

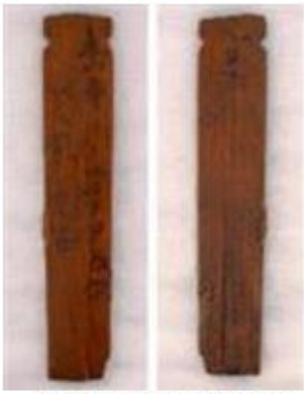
奈良ロイヤルホテルに宿泊。奈良市内には宿泊施設が少なくて、一時は観光は奈良でしても、宿泊は京都で、という流れがあったのですが、平城京遷都 1300 年祭を機会に多くのホテルができ、今は、ビジネスホテルからゲストハウス、旅館など、多くの選択肢ができたようです。奈良ロイヤルホテルは天平文化の中心となった平城宮跡にほど近い場所に建つ重厚で趣あるホテルでした。夕食もホテル内の日本料理屋でいただきました。

2 日目

③　明日香村　石神遺跡（跡）・牽牛子塚古墳・越塚御門古墳

　今回の視察では、日本一古い戸籍「半布里戸籍」とともに、行政区画名の書かれた木簡としては日本一古い「大山」の記載のある木簡の現物※を、奈良文化財研究所で見せていただく計画であったが、視察先との予定が合わずそれはかないませんでしたが、この話を機会に富加町においておける木簡のレプリカをつくる計画ができ、富加町の皆さんにも、もう一つの「日本一古い」歴史的遺産を知っていただく機会ができそうです。（まだ、計画段階ですので実現できるかどうかはこれからですが、期待できるのではないかと考えています）

※当時は牟義郡（現在の武儀郡か？）大山　と記載されているが、富加町大山地区のことである



奈良県明日香村の石神遺跡から出土した古代の行政区分を書いた木簡。右の表部分には年月日と地名が記され、左の裏部分には里の代表者の名前が記されている

（４）（表）　乙丑年十二月三野国ム下評
（裏）　大山五十戸造ム下部知ツ
口人田部児安　152・29・4　032　東西大溝

※乙丑年は天智天皇四年（六六五年）。「国－評－五十戸」制を示す木簡としては最古の年紀を持つものです。全国的に作成きれた最初の戸籍である庚午年籍（六七〇年）より古い点が注目されます。三野国ム下評大山五十戸（後の美濃国武芸郡大山郷にあたるサト、現在の岐阜県富加町付近に相当）から納められた物品に付けられた荷札です。ム下部知ツという人物は五十戸造（サトノミヤツコ）、すなわちサトの代表者と考えられます。田部児安は同サトに居住していた人物です。なお、「ム下」という表記の例は、大宝二年（七〇二年）の美濃国戸籍に記される人名にも見られます。

明日香村では、この木簡が見つかった「石神遺跡」を視察しました。ここは（今は田んぼの下にある）明日香に都があったころの、飛鳥宮の北玄関に当たる場所。飛鳥の都の迎賓館とも言われるところで、当時の中国や朝鮮などの外国などからの使者もここでもてなされたと伝えられます。ここの役人たちが地方から送られてくるもの（税？特産品？）を記録していたと思われる役所あたりで、この木簡は見つかったとのことです。明日香村の職員の方の案内で、見つかったという場所も特定していただき、そこが当時はどういう場所であったかの説明も、その当時の復元図をもとにお話ししていただきました。

そのあと、牽牛子塚古墳へ移動、移動中の富加町のバスの中に、明日香村の文化財担当の職員の方が同乗され、明日香村の概要をお話しいただきました。明日香村には、明日香法（明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法昭和 55 年 5 月 26 日法律第 60 号奈良県高市郡明日香村の史跡保存を目的として制定された日本の法律）があり、それによって史跡やそれを取り巻く景観は守られてきましたが、一方、民家や役所を建てるにあたって、厳しい制限があるとのことで、途中で見たコンビニエンスストアも独特の色、駅前のスーパーマーケットは一見何かの歴史的観光施設かと見紛うくらいで、１階か２階までの、かわらぶき、あるいはかやぶきなどの屋根の低い建築物しか建設しか認められないとのことでした。また、今年９月、再来年の世界文化遺産への登録を目指して文化庁の審議会は、奈良県明日香村などの飛鳥時代の遺跡「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」について、国内の候補として、推薦することを決めたこともあり。明日香村は現在、祝賀ムードにわいているとのことです。

牽牛子塚古墳の概要

牽牛子塚古墳は、天智天皇の母親である斉明天皇、天智天皇の同母の妹である間人皇女（はしひ

とのひめみこ）が埋葬された古墳であり、対辺約 22m で正八角形の形をしていることから地元では長く「アサガオ塚」と呼ばれていました。また、そこに接する場所にあった直径 10m ほどの方墳は「越塚御門古墳」と命名され、天智天皇の息女大田皇女（持統天皇の姉）の墓ではないかと推測されています。

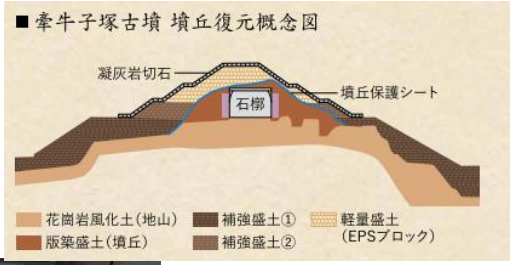
富加町議会視察の観点

この古墳は、数多い明日香村の古墳の中でも、明日香村が独自で発掘調査、整備を行った古墳です。（他の有名な古墳はほとんど、奈良県による整備である）明日香村独自の法律があるとはいえ、富加町と同程度の人口のこの村がどうやって保存や整備を進めていったのか、その財源はどう確保していったのか、そしてこれまで、あるいはこれからどういった活用を考えているのかについて視察することは、今後の夕田墳墓群の整備計画をつくるにあたって大変重要なことではないかと考え、視察先に選びました。

視察の過程

飛鳥駅から古墳までのルートは、歩きやすく整備されており、途中の山や竹林も整備され始めていました。古墳近くの山歩道には、ショウガ（明日香村特産品）の貯蔵用の穴があり、興味深く拝見しました。

牽午子塚古墳は大正時代に国史跡に指定されていましたが、本格的な調査は 2009 年から明日香村教育委員会によって行われました。発掘調査の結果、墳丘の弱体化が認められ、保護、保存の必要性がいわれ、整備が始まりました。本質的な価値の担保を図りながら、後世に伝えるため、補強盛土で覆い外観を築城当時の姿に再現しました。外側の、凝灰岩切石で造られた覆いはシェルターの役目を果たしており、本来の墳丘と覆いの間には軽量盛土である EPS ブロックが使われており、ちょうどクッションのような役目を果たしていると説明を受けました。埋葬施設は二人分の埋葬をした跡があり、ここはガイド（有料）を申し込むことによって、近くまで行くことができます。（私たちは一人ずつ見せていただきました）



牽牛子塚古墳の埋葬施設

越塚御門古墳は、墳丘盛土の大半が失われているものの、埋葬施設は比較的良好に残っていたため、露出展示を行っています。この古墳も、当時の古墳の形に外観は復元され、シェルターとなる覆いで保護されていました。この埋葬施設の所では、施設内に入ることができ、そこで 3 分ほどの説明映像（2 種類）を見せていただきました。（一般の方は有料ガイドを申し込むことによって見学が可能になります）アサガオが咲き乱れる様、蝶が飛ぶ様など、アニメ的な物語とともに美しい映像が流れました。ここでは、斉明天皇、間人皇后（孝徳天

皇の皇后となった)、大田皇女と、天智天皇をめぐるストーリーが流され、古代史ファンでなくてもよくわかる映像となっていました。この映像は、多言語対応しており、ガイドするお客様に応じて言語を変えて上映できるとのことで、インバウンド需要を見据えた設備となっていました。

また、解説板が適宜地面に埋め込まれ、古墳の外観を見ることを邪魔することなく、古墳の内容を知ることができるよう工夫されていました。また、日本語以外のガイドも含めガイドの養成にも力を入れられており、この古墳だけのガイドもありますが、他にも村全体をガイドするツアーを多種用意されていました。(有料ガイドになります)

ご墳印を作成し販売していることや、ふるさと学習にも活用されている様子も紹介してくださいました。

史跡整備の費用ですが、整備費のうち２分の１が国からの補助金、２分の１が明日香村の負担だったそうです。が、明日香村の負担分の一部を交付金として後で国からもらえるそうです。

昼食は石舞台古墳近くの、一般財団法人明日香村地域振興公社(あすか夢耕社)が経営する「夢市茶屋」(農村レストラン)で、黒米御膳をいただきました。古代を意識した黒米のご飯と、地元のお母さんたち(ほとんどの従業員が60代以上)がつくるお惣菜は素朴でとてもマッチしており、ここでも、女性活躍、高年齢の方の活躍、地元素材の有効利用など、多くのヒントをいただいたように思いました。この夢市茶屋の１階部分は、お土産や特産品の販売所になっており、古代米(黒、赤、緑？など様々な色がありました)もいろいろな形で販売されておりました。甘酒もありました。米は、調理方法などのレシピも一緒に添えられており、初めての方も手に取りやすいようになっていました。これは、我々文教厚生委員会の分野ではありませんが、これからの特産品開発のヒントになるのでは、と感じました。

④　新沢千塚古墳群公園

新沢千塚古墳群の概要

新沢千塚古墳群には、４世紀から６世紀にわたる約６００基もの古墳があり、そのうち約400基がこの公園内にあります。大部分が直径１０ｍ～２０ｍほどの円墳ですが、前方後円墳、前方後方墳、方墳などもあります。広い公園内には「シルクの杜」という浴場、温浴施設、温水プール、トレーニングジムのある健康増進施設(ゴミ処理場の熱源を利用)があり、また、「新沢千塚ふれあいの里」(主に地元でとれた野菜や果物を販売)「OTENKI テラスカフェ」(珈琲はじめとする飲料や、軽食を提供するカフェ)がつくられています。また、この古墳群から出土した品々も展示された「歴史に憩う橿原市博物館」もあります。

富加町議員視察の視点

約４００基もの古墳が、自然公園としてそのままの姿で（復元などをせずに）自然に溶け込むような形で整備されています。また、市民が毎朝の散歩や、子どもを遊ばせる場、日常的に地元製品を買い求めにくる場としても活用しており、市民生活に溶け込んだ「歴史公園」です。

富加町の夕田墳墓群も、保存活用計画策定の段階から、「自然を生かした『みせかた』をするのが好ましい」という方向で委員会での話し合いが進みました。また、「なにより、地元町民が親しみ、やってよかったね、と言えるような整備活用が重要」という有識者からのご指摘もありました。そこで、今回、新沢千塚古墳群公園を視察させていただき、自然の中にある公園としての整備や、財源、保守管理、そして活用についてお伺いしました。

新沢千塚古墳群の歩み

古くからこの地に多くの古墳があることはわかっていましたが、昭和 37 年発掘調査が開始された結果、前方後円墳前方後方墳など様々な形のまた、様々な時代の古墳があり、その中にはガラス製品や金・銅製品を副葬する古墳が存在することも明らかとなりました。これらの中にはシルクロードとのつながりを持つ資料も含まれており、重要性が高く評価されました。昭和 51 年 3 月 31 日付で国史跡に指定されました。平成 24 年度から 30 年度まで整備を行い、現在の公園が整備されました。

整備の内容

整備の基本方針は「史跡新沢千塚古墳群公園の学習機能を核とした観光拠点」と「かしはら市民の健康と元気の創造交流拠点」としての整備です。

・史跡指定に係る整備

１２２，６２７㎡を公有化し、市民の憩いの場として史跡公園としました・コンセプトは、自然との調和、小中学校の社会科学習での活用

歩道用園路の整備、古墳周辺の修景、管理用園路の整備、あずまや、ベンチの設置、桜・銅弾つつじなどの植栽など

・都市公園としての整備

平成２３年度から３０年度にかけて整備

温浴施設やトレーニングジム（シルクの杜）や遊具の整備、農産物直売所の設置

整備費用やその財源については

総事業費は４３億円。

設計調査費等１億５０００万円

用地買収費が５億５０００万円

工事費３６億円

国庫補助金として社会資本総合交付金及び防災安全交付金を活用
補助率　用地費 1/3、施設費 1/2
県からの補助はなし

活用状況として、箇条書きで羅列すると
・歴史教育（ふるさと教育）
・古墳群の現地見学と、博物館の展示解説
（古墳の形当てクイズ、古墳の上に花輪を並べる体験、など）
・ウォークイベントの開催
・クイズとストレッチをあわせたイベント
・視覚障がい者団体の受け入れ（触って分かるキットの作成　手作り）

Ｋｏｆｕｎフェスタなどのイベントも行っており、市内外の方に公園に集っていただくような機会を設けられています。

維持管理について

・令和 4 年度より指定管理制度をとっており、ミズノへの業務委託（スポーツ施設だけでなく、公園管理も）で 15 年間の指定
→年間 953 万円の経費削減

・県と市の協定で　例えば手摺は県が、草刈りは市が担当する
・県の土地は県が管理、テラスの所は市が管理
・P-PFI 事業として、県のガイダンス施設を公園内にとりいれ、ガイダンスカフェの整備、運営を任せている。

今後は、マルシェや自主事業での市民参加・協働による公園づくりを目指していくとのことでした。

「橿原市は『奈良県』である。奈良の住民は、歴史史跡に誇りもあり、理解もしている地盤がある。」と言われたのが印象的でした。夕田墳墓群についても、まずは町民にその価値を知ってもらい、理解してもらうことが大切であることを改めて実感しました。また、「整備と活用は両輪で行う必要がある」というアドバイスもいただきました。まず、整備ありきでなく、あわせて活用も考えながらやっていくことが肝要であると、今年度完成する活用計画策定も何度も振り返りながら、また、新しい町民の声も聞きながら、整備をしていく必要があると痛感しました。

今回の視察には、文化財専門官が同行したことで、私たちも深い質問もでき、また、実質的にこれからの整備計画の中心となっていく方なので、同じものを見てこられたことに意義を感じています。また、新町長が同行されたことで、議会と行政側が一緒になって、今後の富加町の歴史文化遺産を考えていける機会となったと思います。
たいへん、意義深い視察研修となりました。
視察先の職員さん、議員さん等に大変お世話になりました。ありがとうございました。

文教厚生常任委員会視察研修のようす

①奈良市：東大寺正倉院

②田原本町：唐古・鍵跡遺 史跡公園

③明日香村：牽牛子塚古墳・越塚御門古墳

④橿原市：新沢千塚古墳群公園